

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	安川電機新小鷺田寮新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	---------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.4 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上  ふつう 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2014(v2.0)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.4	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.9
磁気質タイル(床)、ケイカル板(壁)、ロックウール吸音板(天井)にリサイクル資材を採用している。		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.8
		耐用年数の長い配管を採用している。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.4	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.8	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
LCCO2排出率=78%		自動水栓に加えて、省水型便器を採用している。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
敷地内の緑化により、緑量の確保および暑熱環境の緩和に努めている。		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
		敷地内の緑化により、緑量の確保および暑熱環境の緩和に努めている。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 1.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	3
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	0.76
		外構緑化指数	23.92 %
		建物緑化指数	0 %

:入力欄

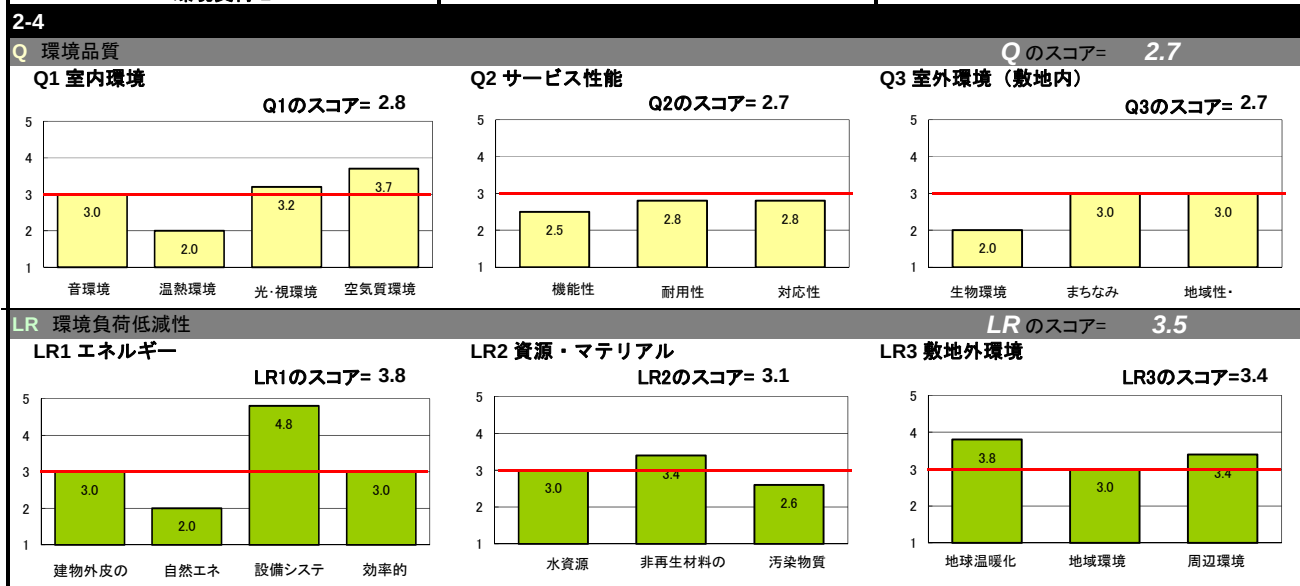
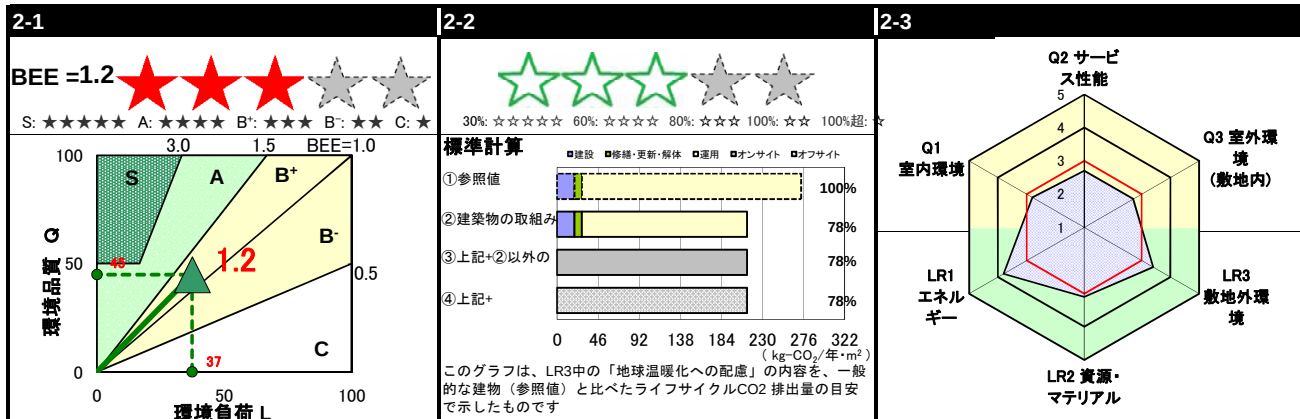
:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1			1-2	
建物名称	安川電機新小鷺田寮新築工事	階数	地上7F	
建設地	福岡県北九州市八幡西区小鷺田町	構造	RC造	
用途地域	法第22条区域、第一種中高層住居	平均居住人員	168 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2017年9月26日	
敷地面積	12,304 m ²	作成者	小林大祐	
建築面積	1,846 m ²	確認日	2017年10月2日	
延床面積	5,990 m ²	確認者	青柳 道夫	



3		
総合 近隣住民と寮生のプライバシーに配慮し、居住部（寮棟）をコンパクトに計画した。共用部は居住部と別棟とし、「中庭」や「前庭」を介して自然環境を取り入れることで寮生の居住性や省資源化に有効活用できる計画とした。		その他 注）上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 ほぼ全ての建材はF☆☆☆☆適合材料を採用。	Q2 サービス性能 特になし	Q3 室外環境 (敷地内) 外構緑化指数=23.92%、空地率=80.55%、緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率=21.27%。
LR1 エネルギー 外皮断熱施工、LED照明器具の採用、潜熱回収型ガス給湯器の採用。	LR2 資源・マテリアル 磁器質タイル（床）、ケイカル板（壁）、ロックウール吸音板（天井）にリサイクル資材を採用している。	LR3 敷地外環境 地表面対策面積率=27.26%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版

安川電機新小鷗田新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.8
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		2.6	0.25	3.7	1.00	3.2
3.1 昼光利用		1.8	0.30	3.4	0.30	
1 昼光率	住居部(A寮室):2.60	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策	住共用(食堂)=ブラインド、庇、住居(寮室)=ブラインド+庇	3.0	0.30	5.0	0.30	
1 昼光制御	住共用(食堂)=ブラインド、庇、住居(寮室)=ブラインド+庇	3.0	1.00	5.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	ほぼ全ての建材はF☆☆☆☆適合材料を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	A寮室:開口面積3.09>面積13.49の1/6(2.25)以上	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.7
1 機能性		2.5	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	3つの項目に対して対応(根拠資料参照)	4.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管を採用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.6	0.20		-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-		
	3	電気設備		2.0	0.20		-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20		-		
	5	通信・情報設備		2.0	0.20		-		
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.8	1.00	2.8	
3.1 空間のゆとり					-	2.6	0.50		
1				階高のゆとり		3.0	0.60		
2				空間の形状・自由さ		2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり					-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-		
1				空調配管の更新性	3.0	0.20		-	
2				給排水管の更新性	3.0	0.20		-	
3				電気配線の更新性	3.0	0.10		-	
4				通信配線の更新性	3.0	0.10		-	
5				設備機器の更新性	3.0	0.20		-	
6				バックアップスペースの確保	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30		-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40		-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30		-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20		-	3.0	
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10		-	2.0	
3 設備システムの高効率化				BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.92	4.8	0.50	-	4.8	
集合住宅以外の評価(3a.3b)						-	-		
集合住宅の評価(3c)				LED照明器具の採用、潜熱回収型ガス給湯器の採用	4.8	1.00			
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0	
集合住宅以外の評価					-		-		
4.1 モニタリング					-		-		
4.2 運用管理体制					-		-		
集合住宅の評価				3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護				3.0	0.20		-	3.0	
1.1 節水				3.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-		
1				雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00			
2				雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60		-	3.4	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				磁器質タイル(床)、ケイカル板(壁)、ロックウール吸音板(天井)	5.0	0.20	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				躯体と内装材:LGS工法により容易に分別解体可能	4.0	0.20	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.20		-	2.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30		-		
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.70		-		
1				消火剤	-	-	-		
2				発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-		
3				冷媒	2.0	0.50	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮				運用に係るCo2排出量の削減化	3.8	0.33	-	3.8	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.3	0.25		-		
1				雨水排水負荷低減	3.0	0.33	-		
2				汚水処理負荷抑制	-	-	-		
3				交通負荷抑制	寮室数165戸に対して99台の駐車スペース確保(60%)	5.0	0.33	-	
4				廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.33	-		
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33		-	3.4	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-		-		
1				騒音	-	-	-		
2				振動	-	-	-		
3				悪臭	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.67		-		
1				風害の抑制	3.0	0.70	-		
2				砂塵の抑制		-	-		
3				日照阻害の抑制	3.0	0.30	-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.33		-		
1				屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たす、広告物照明設置無し	5.0	0.70	-	
2				星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-		